

# 易老岳～上河内岳～聖岳

⑦ 9/9 (火) ～12 (金) K氏と

9/9 快晴 13:00～道間違えて大鹿村へ行ってしまふ、時間ロス～223KM 17:47 聖光小屋

この夏は本当に天候不順でした。登山計画も延期につぐ延期や中止が多かったので8月は何と1回も山行無しでした。久振りに好天気続くようなので、出発する。それにしても時間かかって小屋に着く。ここの親父はどうもオカシイ。電話になかなかでない。混んでいるので「離れ」の物置だと言うがろくに宿泊者はいそうも無い。でも其のほうが気楽だ。飲んで早めに寝る。(私の推測だがここ的小屋番はキャンプ場や駐車場の管理料をもらっているやとわれマダムでやる気が無いのでは?)

9/10 快晴 5:00～ 易老渡 5:35～7:18 面平 7:25～10:00 三角点 10:10～10:35 易老岳 (2354M) 10:50～(昼食40分)～13:32 希望峰 ～(仁田岳 2524M 往復) 14:35～15:25 茶臼岳 (2604M、日本300名山) 15:40～16:10 茶臼小屋

5時前に出発する。一度易老渡まで行き、K氏と荷物を置いて小屋に戻る。車を置いて折りたたみ自転車で又易老渡へ向かう。下り坂なので楽だ。折りたたみ自転車は柵に鎖で縛り、鍵をかけておく。帰路回収する。

登山口には結構駐車してある。登山者もチラホラいる。さすが100名山ブームだ。こんな山に(失礼)登るのはほとんど100名山派である。そう言う我輩もここから光岳を往復したが。何で100名山なの? と思った山であった。今回は100名山の時に聖岳から便ヶ島小屋へ下山してしまい、南アルプスの縦走路でこの区間だけ空白になってしまったので、埋めるためである。私の目標も手間暇掛かる。聖岳は登らなくても良いのだが付き合ってくれたK氏へのお礼もあるし。稜線へ出てからはさすがに登山者は少ない聖からの縦走者に会っただけだ。快晴で富士山を見ながら歩く。

易老岳山頂



仁田岳山頂



静岡県は山に金を使う良い県だ。標識、案内標が立派だし、県営の小屋も幾つかある。それに引き換え我が「信州」は登山客が多いが金は使わない。県会議員に山好きが居ないのか? アルプスの知名度にアグラをかいているのか? 山梨県も金を使っている。頂上には「山梨100名山」の標識があるし、小屋も経営している。信州100名山の茶臼岳にも登れた。茶臼小屋は稜線から遠かった。静岡県側からの登山者が多かった。

仁田岳からこれから歩く茶臼岳、上河内岳、聖岳の展望



茶臼岳山頂



9/11 快晴 5:20~5:37 稜線~7:05 上河内岳の肩 7:10~7:20 上河内岳 (2803M、日本200名山) 7:35~7:42 肩 7:50~9:30 聖平小屋 9:55~13:00 聖岳 14:10~15:50 薊畑~16:10 聖平小屋

快晴無風の登山日和で富士山始め展望が良い。上河内岳は大きな立派な山だ。山頂からは聖岳が立派に見える。さすが南アルプス最南端の3000M峰である。鹿の食害でトリカブトとマルバタケブキ(毒草)以外ほとんど食べられてしまった。

上河内岳から聖岳



上河内岳山頂



聖平小屋



小聖岳からの聖岳



小屋の付近は柵で囲っての「保護」が何箇所かある。深刻な問題である。小屋に寄り軽身で聖岳を往復する。小聖岳の先のガレ場には矢張り「水場」があった。貴重な水場であるが気がつかない登山者が多い。山頂からの展望は素晴らしい。富士山、赤石岳、奥茶臼山や各縦走路が一望である。ユックリ展望を楽しむ。何も持たない青年が一人で登って来た。静岡からバイクでツーリングに来て、自分の名前と同じ「聖」岳登山口とあり思いつきで始めて登山したとの事である。カメラも持っていないので「記念写真」を撮ってやる。コーヒーと梅干をやる。日帰りの強行軍である。

静岡の「聖」君



富士山を背に聖岳山頂



後日写真送ったらお礼状と海産物が届いた。好青年である。咲いていた花はヤマハギ、ヤマハハコ、タカネナデシコ、ホソバコゴメグサ、タカネマツムシソウ、オトギリソウ、ミヤマアキノキリンソウ、アザミ、マルバタケブキ。トリカブトとウメバチソウは沢山咲いていた。暗くなって小屋の人がやってきて聖岳へいった2人組がまだ帰らないが見なかったか？と私達の所へ聞きに来た。見なかったと言ったら心配そうな顔をした。(翌日聞いたら無事夜帰着したとの事)

9/12 快晴 5:30~5:55 薊畑 6:00~7:00 こけ平~8:00 2/1 標識 8:05~9:20 渡し場 9:35~10:05 聖光小屋(昼食) 11:00~易老渡で自転車回収~総走行距離 412KM 14:45 自宅

今日は下るだけである。それにしてもこの小屋のトイレは離れて設置されている。200Mはあるだろう。其の為に夜間は電灯が幾つも点灯してある。でも女性は気持ち悪くて1人では？標高差 1500Mの急な坂道を下る。ザレテ細い場所もある。はるか下は沢である。足を踏み外せば間違いなく死ぬ。そんな箇所もある。2人ほど不明者がいるとの事だがきっと転落したのだろう。(11月に一人川で遺体が見つかったとの新聞記事が載った)途中から登ってくる登山者が多くなる。団体も。好天の金曜日のせいかな？鹿の食害対策のイベントもあるようだ。ボランティアの人達も居るのだろう。朽ち果てた造林小屋を過ぎると懐かしい「渡しの籠」がある。昔は籠だったが今は立派な鉄製の物だ。そのかわり恐ろしく重いので2人掛りでヒッパラないと動かない。

西沢渡の渡しが鉄製に重い



便ヶ島への下り



単独行や女性2人ではどうするのか？金の掛けすぎだと思っただが。後は森林鉄道のあとの車も走れそうな道である。トンネルもある。懐かしい。聖光小屋のキャンプ場の立派な東屋で食事、休憩して帰路に着く。実は自転車の鍵が無いのが初日から気がつき、自転車をどうするか？ズット悩んでいた。聖平小屋でザックの中身を全部出してみたら底にあった。良かったと思った。又取りに来るのか？金掛かるので諦めるか？さんざ考えた。

それにしても快晴の4日間、毎日富士山を眺めながらの良き山行でした。又K氏の健脚(私よりも数歳年上でもあるが)にも脱帽です。有難う御座いました。南アルプスの縦走路の踏破達成しました。